

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

# CASBEE 新築[簡易版]

# 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年通補版Ver.2 (BPV/BEI対象) | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010bpi&bei(v.2.11)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	GLP厚木Ⅱ	階数	地上6F
建設地	愛知県愛川町中津字桜台4022番2、4041番1	構造	RC造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	550 人
気候区分		年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年6月 予定	評価の実施日	2016年5月23日
敷地面積	38,215 m <sup>2</sup>	作成者	㈱大本組東京本社
建築面積	15,757 m <sup>2</sup>	確認日	2016年5月23日
延床面積	89,242 m <sup>2</sup>	確認者	㈱大本組東京本社



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 2.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み: 82%

③上記+②以外の: 82%

④上記+: 82%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.1**

#### Q1 室内環境 (スコア: 2.5)

音環境	2.6
温熱環境	2.4
光・視環境	2.5
空気質環境	2.8

#### Q2 サービス性能 (スコア: 3.7)

機能性	2.9
耐用性	4.0
対応性	4.4

#### Q3 室外環境(敷地内) (スコア: 3.2)

生物環境	3.0
まちなみ	4.0
地域性	2.5

**LR のスコア = 3.9**

#### LR1 エネルギー (スコア: 4.2)

建物の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	5.0
効率的	4.5

#### LR2 資源・マテリアル (スコア: 3.9)

水資源	4.2
非再生材料の	3.9
汚染物質	3.6

#### LR3 敷地外環境 (スコア: 3.4)

地球温暖化	3.7
地域環境	3.5
周辺環境	3.1

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b> 免震構造を採用するとともに十分な階高を確保している。 外壁には断熱性能の高い鋼板パネルを採用し、熱負荷の低減を図っている。		
<b>Q1 室内環境</b> ・照明の点滅区分を細かく分けることで、作業単位毎の照明点灯に配慮する。	<b>Q2 サービス性能</b> ・建築基準法の1.5倍かつ免震構造の導入等により、耐震性に配慮する。 ・耐用年数の長い材料を積極的に使用して、建物の持続性の配慮する。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・敷地外周部に緑地を設け、生物自然の創出に配慮する。 ・既存樹木を保存し、地域の自然環境保全に配慮する。
<b>LR1 エネルギー</b> ・高効率な照明器具を導入し、エネルギーの効率的利用に配慮する。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・節水型小便器や自動水栓等の採用により、節水に配慮する。 ・井水を利用し、上水使用量削減に配慮する。 ・エコマーク認定品やグリーン調達適合品のリサイクル材を使用し、資源の再利用に配慮する。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・燃焼設備を設けずオール電化とし、大気汚染防止に配慮する。 ・十分な駐輪及び駐車スペースを確保し、敷地外への交通負荷抑制に配慮する。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される